

# 巻 頭 言

日本白鳥の会会長 松 井 繁

早いもので、会の創設から12年になります。当時壮年であった会員も老年期に足を踏み入れた人が少なくありません。かく言う私も還暦を迎えてしまって、早く会としての基礎固めをしなければと焦りを覚えています。

その一つに、経済的な基礎も確かにしなくてはなりません。この度、基金の性格をもった資金をと考え、編集の係の皆さんとも相談して、後掲の様に広告を集めてみました。さらに、会員その他の方々からの寄付もあり、ある程度まとまった金額を作ることができました。紙上を借りて御礼を申し上げます。しかし一方では、会費の徴収率があまり良くないこともあり皆さんの協力を御願います。

さて、会員の若手層の厚みを加えたいと、度々、皆さんとお話しています。少しずつ効果が上がってはいると思われませんが、これは重要な問題です。このために一つの私案ですが、研修会を盛んにしたいと考えています。そういった意味からも今年の研修会の様に皆さんに、どんどん研究発表をして頂きたいと思います。

ところで、今年は昨年からの宿題になっていました、ソビエトの学者コンドラチェフ氏とのコハクチウの共同研究についてですが、来シーズンからいよいよ実現することになりました。私どもの悲願とでもいうべき、「ソビエトとの交流」が、一昨年行われ、次いで共同研究が実施されることは誠にうれしいかぎりです。とはいえ発表その他の方法について、幾多の問題を解決していかななくてはなりません。これからはますます、会員の一致協力をもってこの研究を完成させたいものです。

加えて、定時定点観察についてですが、昨シーズンは総会でいろいろな改善案が出されました。それを土台にして観察、報告され、然るべき効果はあがっていると考えています。それでも、観察点の穴は埋めることはできません。私自身、努力してみたものの成果をあげられず反省しております。

結局、会としての活動は、会員相互の協力如何にかかっています。私なりに幾つかの努力目標をあげてみましたが、これからの飛躍のためにも、各人の一層の努力が要求される今年であります。

私どもに共通した宝物である白鳥のために、重ねて協力を御願する次第です。